



## Diversity 2015

徳島大学運動機能外科学 教授 西 良 浩 一

2013年11月に教室を任され、Diversity を一つの教室運営の運営 spirit と掲げました。2年が過ぎました。Diversity 最初の試みとしてまず、私の専門の一つがスポーツ医学であることより、非常勤講師に2名のアスリート・オリンピック講師をお願いしました。お1人目は私が現役時代に腰痛治療を担当させていただいた、女子ハンマー投げ&円盤投げで日本記録保持者の室伏由佳先生です。ご自身の体験を元に、スポーツ医学、女性医学、アンチドーピングなどの講義を担当して下さっています。もう1名は県内オリンピックでメダリストでもある源純夏先生です。教授就任後、共通の知人である早稲田の金岡教授のご紹介で知り合いとなりました。現在、競泳選手であった経験を生かし、徳島県にてライフセービングクラブを立ち上げ、水際での事故対策をはじめ「減らせ突然死プロジェクト」にも参加しており、医学的には救命救急の観点からの



写真1：室伏由佳先生



写真2：源純夏先生

講義を担当して下さっています。オリンピックが担当するスポーツ医学特論は、医学生からの評価が非常に高く、毎年整形外科の授業・実習は高い評価を頂いております。

さて、教室も Diversity を推進しております。本年4月には東野恒作先生が、クリニカルアナトミー教育研究センターの准教授・副センター長に就任されました。これまで東野先生は縁の下の力持ち的役割でしたので、ようやく実力に似合ったポジションに着くことができました。准教授就任に関しましては、安井夏生病院長、金山センター長にご尽力いただきました。ここで厚く御礼申し上げます。国内でも類のない fresh cadaver を使用した clinical anatomical research の中心的存在として整形外科を始め徳島大学全体を牽引して下さることと、大変楽しみにしております。また、医学部講師として西庄俊彦先生が就任されました。講師陣の中では最年少ですが、運動器悪性腫瘍の臨床研究&基礎研究の県内唯一の存在として、抜群のリーダーシップで教室を盛り上げています。また、7月からは、私の同級生の福田昇次先生が脊椎関節機能再建外科講座の講師として肩関節外科中心に新しい風を吹かしてくださっています。講師就任後、肩関節鏡の新しい手技、リバーズ人工肩関節のユニークな臨床研究など次々と発表され、その功績が認められ本年12月には准教授に昇進いたしました。従いまして、2015年12月の時点では、教授1名、准教授4名、講師5名と総勢10名のスタッフが、運動機能外科学講座、脊椎関節機能再建外科学講座、クリニカルアナトミー教育研究センターと3つの部門に渡り、diverse に活躍しております。今後の徳島県はもとより国内外でのわれわれ徳島大学整形外科医の担う役割は大きいと感じております。

教育での Diversity も着実に進んでおります。大学院教育にも門戸を広げております。まずは、産業医大出身の山下一太先生。現在、大塚製薬で産業医として勤務しながら夜間・休日に社会人院生として脊椎中心の研究活動に勤しんでおります。東野恒作准教授の指導下大変オリジナリティーの高い研究を行っており、今後が大変楽しみです。またアスリート院生として横浜ベイスターズの高橋壘さんと、続いて大阪在住の新体操コーチ豊田安貴子さんが社会人院生に進学しました。また、義肢装具士の藤本さん、理学療法士の石井さん、森下さんも新しく社会人院生となり、熱心に研究して下さいしております。現在、愛知県大学病院勤務の理学療法士の方からも希望が届きました。医師とは違った

視点から運動機能外科学発展に寄与して下さっております。整形外科医師も負  
けられません。現在、専任大学院生3名に加え、5名が社会人院生として研究  
しております。注目すべきは、4月から、50の手習いを実践したいと、名古屋  
徳州会病院の病院長として臨床に大変ご多忙である私の4級先輩の前田徹先生  
が社会人院生として、母教室で研究活動を再開して下さいます。大変心強く感  
じております。

以上、教室における Diversity2015を述べさせていただきました。この大き  
い MOVEMENT が2016年にも繋がり、さらなる教室・同門の発展になるよう  
期待しております。同門会の諸先生方、ますますの応援、ご協力、ご指導よろ  
しくお願い申し上げます。